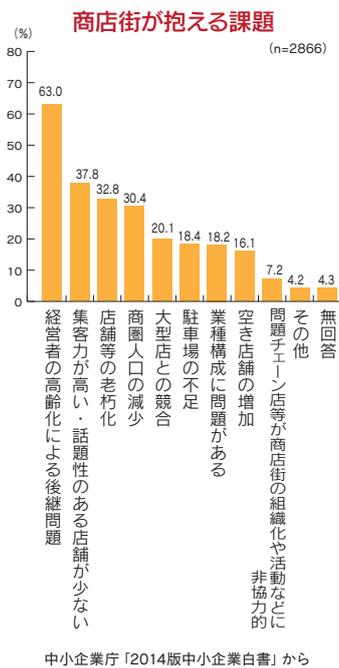


まちなかの賑わいを取りもどそう



今回の特集では、まちなかに増える空き家、空き店舗を解消し、賑わいの創出を後押しするツールのひとつ、市街地活性化事業について紹介します。

▲岩間駅を含む区域



まちなかにある商店街は、いわゆる「まちなか」として存在し、お祭りを開催するなど地域活性化の担い手、地域コミュニティを形成する「場」として地域に貢献してきました。

しかし、モータリゼーションの進展もあり、郊外への大規模小売店舗の出店が進み、商店街を中心とするまちなかは空洞化していきました。

全国調査による商店街の空き店舗の割合は、2003年に7・3%であったのに対し、2012年には14%を超えていて、商店街はますますその活力を失いつつあります。

商店街の抱える課題として最も多いのは、「経営者の高齢化による後継問題」、次いで「集客力が高い・話題性のある店舗が少ない」などの回答でした。特に経営者の高齢化は深刻であることが分かります（2014版中小企業白書より）。

市内でも、同様の理由から閉店、そして客足が遠のき、いつの間にかシャッターが下りたままのお店が増えてしまいました。このままでは住んでいる方や訪れた方に寂れた印象を与えてしまい、ますます客足が遠のく悪循環を招いてしまいます。

そこで市では、まちなかにふたたび賑わいを創出するため、空き家・空き店舗・空き地を活用して、新規出店にチャレンジする方に改装費などを補助する市街地活性化事業に取り組んでいます。

平成28年度の実績

3店舗が新規出店しました

市街地活性化事業は平成28年度から始まり、その実績は3店舗の新規出店につながりました。3店舗はいずれも笠間稲荷周辺に出店、その業種はカフェ2店舗と居酒屋1店舗です。3店舗には改装費として、合計で1300万円を補助しました。

集客力が高い話題性のある店舗が出店し、まちなかに新たな客層が入ること、既存店にも経済効果が波及することを期待し、補助事業を行っています。

庭Cafe



江戸末期に建てられた土蔵を改装しました。オーナーの富田さんは「笠間稲荷や門前通りが好き」と語ります。



Kinomi



時計店を改装したカフェ＆雑貨店。オーナーの半田さんは「笠間で笠間焼の器を使ったカフェをつくりたかった」と出店理由を話してくれました。



Hige Boss



地場の農産物をメインとした料理と地酒を提供しています。オーナーの高野さんは、やっぱりひげを生やしていました。



▶ 笠間駅を含む区域



▶ 稲田駅を含む区域



事業対象エリア
駅などを中心とした5つです



▲ 岩間駅西口の街並み



▲ 友部駅南口の街並み

平成28年度の実績では、3店舗すべてが笠間稲荷周辺のエリアでの新規出店でしたが、市街地活性化事業では、JR岩間駅、友部駅、笠間駅、稲田駅を含む周辺も対象エリアとなっています。



▲ 笠間稲荷周辺区域

私たちのごきもち

買い物も「地産地消」しませんか？

皆さんは必要なものを買うときにどこで購入していませんか。地産地消は農産物に限ったことではありません。市外の大規模店舗に行けば何でもそろそろ便利な面もあります。また、最近ではインターネットでさまざまなものが購入できるようになっています。

しかし、市内で買えるものは市内で購入することで、お金が市内で循環されることになり、結果的に、市内経済に波及効果をもたらすこととなります。できるだけ市内で買い物！の心がけが大切です。

意欲のある方は、ぜひご相談を

笠間市の人口は、現在75,794人、世帯数は2,8559世帯（※人口、世帯数ともに平成29年7月1日現在）で、平成18年3月の1市2町の市町合併から人口規模は縮小傾向となっています。

しかし、対象エリアの5つは小さいながらもともと商店街が形成されていた市街地でもあることから、比較的人口が集中している区域でもあります。このエリアにある空き家・空き店舗・空き地を活用することで、比較的安価に、そして市街地活性化事業補助金を利用することで、自己資金だけで出店するリスクが軽減されます。市街地活性化事業では、現在対象事業の募集（8月31日締め切り）を行っています。市内で出店意欲のある方は、一度担当までご相談ください。



【問い合わせ】

- 事業に関すること：まちづくり推進課（内線537）
- 特集に関すること：秘書課（内線225）

※ 秘書課広報戦略室では、市内のさまざまな情報を募集しています。